

西宗 直之さん (平成10年度入学生)

—総合科学部に入学した理由—
もともと大学を選ぶときから漠然と環境的な仕事や研究をやりたいなと思っていました。それでいろいろ調べた結果、総合科学部に自然環境研究コースがあることを知って、ここで勉強したいと思いました。

—サークル活動について—

体育会の空手道部に所属していました。高校までは剣道をやっていましたが、剣道というのは武道としてはカッコいいんだけど、非常事態が起こったときに棒切れが落ちてないと戦えないわけです。そうなると、棒を探す時間が大変だから、じゃあ拳でやったほうがいいじゃないか、っていう単純な理由で大学から空手を始めたんです。バカだね(笑)。練習は日曜以外毎日あったんで、勉強との両立が大変でした。まあ、大変ですけど、まさに文武両道っていう言葉があるように、そこは自覚をもってやらないといけないですからね。最終的に、空手は二段まで取って、三・四年生では大会でそこそこの成績を残すことができたと思います。

のサークル活動じゃ体育会的な苦しさを経験することは少ないでしょう。試合で勝つという共通目標をもって厳しい稽古を毎日続けるのは大変なんだけど、そこで支えあう仲間がいたからこそ続けられたんだと、今となっては思います。

—それから、三年生の時に主将を務めさせてもらって、一つの組織をリーダーとしてまとめることに苦悩の連続だったんですけど、これは今の人生にとっても大きなプラスになっていると思います。

—逆に辛かったのは遊びの時間がとれなかったことかな。結構、部活中心だったんで、あまり総科の人たちと関わりをもてなかったですね。

—大学卒業後の進路—

大学卒業前は就職活動は全然やらずに、そのまま大学院の生物圏科学研究科に進学しました。大学の入学当初から、大学院までは勉強しておきたいという考えがあって、修士課程への進学は自分としては既定路線という感じだったで



取材風景～CAFEにて～

すね。それから、四年生で配属された研究室で指導してもらった小野寺先生に、研究に対する姿勢や考え方の面で強い感銘を受けたというのも大きいと思います。

—研究では、森林水文学という、森林域での物質移動に関する学問があるんですけど、その中で私は山火事跡地での土砂流出に関する研究をやりました。先生の要求する仕事はかなり体育会的で大変だったんですけど、とてもやりがいがあった充実した研究生生活を送ることができました。それで、とりあえず三年はやって

てみて、研究へののめり込み具合からその後博士過程に進学するか、就職するかを決めようと思ってました。総科での研究は四年から始まりますけど、理系は実際一年じゃ成果を出すのが難しいから、周りにも修士課程に行くことを前提にだいたい三年路線で研究を考えていた人が結構多かったですね。あとは、もうちょっと学生でいたいなというモラトリアムのな考えが若干(笑)。

—この仕事を選んだ理由—

公務員が良くなってきた考えはM1の頃からあったかな。もともと、研究時代に多少森林に関わっていたから、漠然と森林とか環境とかに関係する仕事をしたくないなという思いはありました。その中でも、なんで公務員を選んだかというのと、当時不景気の真っ直中だったというのもあったけど、行政で言うところの政策決定に自らが関われるということに大きな魅力を感じていたというのがあります。国家公務員だったら国全体の政策決定に関われんですけど、広島県庁に絞って受験したのは、学生時代に土砂流出に関する研究に携わったことで広島県の森林が山火事を含めて荒廃している現状を目の当たりにして、

OB 紹介

広島県の森林を何とかしたいという思いが強かったからだと思います。それで、広島県庁の林業職という専門職を受験した訳です。それから、やっぱり生まれ育った広島が好きだったっていうのもあると思いますね。

広島の魅力っていうのは瀬戸内沿岸と山間部でがらっと景色が違うということですね。南は温暖で気候がいいし、北はウィンタースポーツができるような寒さもある、おおよげさなことをいえば全国の縮図と言ってもいい県です。森林について言えば、南部はアカマツ林を中心とした里山的な二次林が広がっているし、北部はスギやヒノキの整然とした人工林が植えられていて、多種多様で美しいと思います。

— 仕事の内容について

私が今いるのは農林水産部森林保全室の森林保護グループというところです。何をするとところなのかというと、森林保護グループはリーダーと主任と自分の三人の小グループで、リーダーがグループの総括、主任が森林病害虫の予防や駆除と森林被害量調査、そして私が山火事予防対策と、それから人工造林地の森林を対象とした損害保険で森林国営保険というのがあるんです

けど、これらが中心です。

私が関わっている山火事予防対策の仕事は、ラジオ放送や新聞の広告を活用して広報したり、ホームページやテレビ放送で乾燥時の火の取り扱いの注意を呼びかけたりすることが中心になってきます。もう一つの森林国営保険の方は、国から事務を受託して仕事をすることになっていて、こういうのを法定受託事務というんですけど、県内で保険に加入したいという方の契約を取りまとめて証書を発行したり、気象災害や山火事に遭って保険金請求が上がってきたときに保険金査定をしたり、農林水産省と書類のやりとりをしたり、ほとんどが事務的な仕事です。

森林保全室には他に緑化イベントや林業普及を行う緑化推進グループと、県営林を管理している公有林管理グループ、それから、今年の十月に県立中央森林公園で第三十回全国育樹祭という一大イベントが行われるんですけど、その行事を進める仕事をしている育樹祭の事務局があります。

— 仕事のやりがいや苦労は？

今、県庁の仕事始めて三年目で、ようやく仕事の進め方や仕組みが分かるようになってきたところなんです、

それでもまだ日々勉強するところがたくさんあって、そういうのを一つ一つクリアしてスキルアップしていったら、実感したときに、やりがいを感じるのがある。それから、もう一つは自分のやった仕事で外部の目に触れるようなとき、例えば山火事予防の広告がちゃんと掲載されたり放送されたりするのを確認したときには仕事をした実感が湧きます。

苦労については、これは一般的に言えるんだと思うけど、社会人としての人との接し方については学生時代とはまるで変わってくるんで、日々の業務の中で使いこなせるようになるまでしっかり大人の作法を勉強しないといけないですね。

— 現在の目標は

あまり具体的じゃないかも知れないけど、限られた分野のことしか知らないんじゃないかと、いろいろ経験して幅広い分野に精通したいなっていう気持ちがあります。そして、行く行くはトータルバランスに優れたプロフェッショナルな公務員になりたいと思っています。プロ意識を持つというのには、別に特殊な仕事をするとかいうことだけじゃなくて、どんな仕事であっても

それでお給料を頂いてるんだから、それに見合う以上の責任をもって仕事をするという意味でそう思う訳です。トータルバランスというのは、私は一応林業職を選んで入っているんですが、そこを掘りどころにしながらも、他の部も含めて広い分野で経験を積んで、広い目線で将来の森林林業行政に活かしていきたいと思ってます。やっぱりそれが総科出身の強みですからね。

— 学生にアドバイス

大学生活の四年間って、社会人になってからの時間と比べると本当に短いんです。でも社会人時代にはできないことで、学生である今だからこそこできることってたくさんあると思うんですよ。普通のサークル活動でも勉強でも、まるまる自分のために時間を使える時代って学生のときしかないんです。そこで、できることをとにかくやってほしいですよ。別にがんばらない時期があってもたまにはいいと思うけど、ただ一つ一つを学生生活なんだと後で実感できるような悔いの残らない生活をして欲しいです。

(担当 17生 斎藤佑亮)

森 智尋さん (平成14年度入学生)



授業風景

■仕事

—まずは、お仕事について教えてください。

担当しているのは一年生が四クラスと、二年生が二クラスです。賀茂高校では、英語 I と Oral Communication 1 (OCC) という授業があつて、それを担当しています。二年生はライティングの授業をやっています。

—授業はどんな感じですか？

私が高校時代に使っていたのと同じ出版社の教科書を偶然使っているんですけど、見えたのはすごく絵が増えています。カラフルなんです。

それから、私の頃は English の授業なんてなかったのが、時代は変わったなあと思います。授業をしていて、先生、先生って言う子が多

いし、先輩の先生方もすごく面倒をみてくださり勉強もさせてくださるので、今の正直な気持ちとしては、初めての赴任校が賀茂高校でよかったなってホントに思っています。

—高校の英語の先生になろうと思つたきっかけは？

先生になろうと思つたのは高校生の時で、でもそのときはまだ「英語」という具体的なことは決めていませんでした。私は、高校時代にクラブや生徒会活動を一所懸命やっていて、その中でいろんな先生と出会って、すごく楽しい高校生活を送ることができた

んです。生徒に対しても、充実した高校生活を送って、志望校に合格して、という経験をぜひしてほしいなあと思つたことがきっかけです。英語を選んだのは、高校生の時にすごくいい英語の先生にみていただいたので、その影響だと思います。

—先生という仕事の、やりがいや苦労を教えてください。

まだ、教壇にたつて一ヶ月半ほどなので、自分の思うように授業ができなくて、「ああ、生徒これじゃわかってないだろうな」と思いながら毎日授業をしています。早く思いどおりの授業ができるようになっていきたいというのが一番の思いです。生徒たちがわかつたつていう表情をしてくれたその瞬間が、一番やりがいがあるなあと感じます。もちろん受験のための英語もすごく大事だけど、それだけじゃなくて、どんなことでもいいので英語という道具をつかって、自分の夢や可能性を広げていってほしいなというふうに思います。

■大学生活

—なぜ総合科学部に？

高校時代の恩師の、「目標が定まっているならば、大学ではやる事を絞り込みすぎずに、教育学部でないところで英語を勉強をしてみてもどうか」というアドバイスのもと、総科を選びました。

言語文化科学プログラムに所属して、卒論は Skar 先生の下で音声学について書きまことや、もし総科じゃなかったらやらなかったであろう理系の分野なんか勉強できたのは、よかったと思います。

—サークルについて教えてください。

サークルは広島大学交響楽団に所属していました。友達によく「おまえはオケ学部だ」と言われるぐらいサークルばかりの大学生活だったんですけど(笑)。二年間学生指揮者を務めました。学部の勉強ももちろん大事だと思っんですけど、やっぱりサークルで得た友達とか経験っていうのは、ちよつと大きいですけど、

OG 紹介

ホントにこれからの人生の中ですごく大きな糧になると思います。

—教員免許について、関心のある学部生も多いと思うので、聞かせてください。

私の場合は、大学に入る前から、教師になりたいっていうのが夢だったので、特に教員免許のための勉強が苦痛だったと感じたことはありませんでした。でも、一緒に教免を取ることを目指していた友達のなかには、授業の数が多いり何時間も多くなってしまうのがつらく挫折していった人もいました。教育学部の中に混じって授業を受けることが、知識や考え方の面で厳しいなっている部分もありました。計画性を持って単位を取ることも大事です。一番しんどいのは教育実習ですね。付属の先生はとてつもない先生方なので、ホントに厳しくて、実習中は睡眠時間二〜三時間が続いて、土日もあんまり休めずという感じだったので、でもそこで経験したことは、やっぱり教師になりたいって

いう思いを強くしてくれました。

—教員を目指している学生にアドバイスをお願いします。

教育実習に行く前に「先生になる気のない人は免許をとるな」という厳しいことを全員の学生が言われます。やっぱり免許をとるからにはそれなりの覚悟と自覚をもって授業とか履修に望んでほしいなあと思います。教育学部の人たちと一緒に授業を受けたり実習に行ったりする上で、知識面などですごく不利な部分を感じることもあると思いますが、消極的にならずに、総科の良さを生かしていい先生を目指してほしいなと思います。

—大学時代に留学をされたそうですね？

私費の留学で、イギリスのロンドン市内の中心部にある私立の語学学校で約二ヶ月間勉強しました。留学したいっていうのは大学一年生のときからの夢で、行くなら絶対イギリスと思っていたので、バ

イトをしてお金をためて行ってきたのはもちろんのこと、西条の大学生ばかりの中で何年も生活していたのが、いろんな国の人たちと文化を共有しながら生活することで、視野が広がったなと思います。それから、海外に対する興味や、英語に対する好奇心が留学前よりも強くなったように思います。

—留学については、迷ってる暇があったら行けって私もよく先輩に言うんですけど(笑)。行く価値はあると思います。長期で海外に行くことは、就職するとなかなか難しいので、学生の時代にしかできないことのひとつです。

—これからの目標を教えてください。

私は今、非常勤講師という立場で教壇に立っているのですが、今の第一の目標は、採用試験に合格することです。授業の面

では、やっぱりまだまだ自分の知識がたりないなあと思っています。英語の力を付けて、授業力をつけて、少しでも生徒にわかって、楽しんでもらえるような授業がしたいです。余裕ができれば、クラブ活動もみれたらいいなあと思っています。

(担当 18生 佐師智郁子)



授業風景